

press release

2010年8月6日

(これは、ロンドンにて2010年8月4日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータード PLC 2010 年度上半期決算発表 税引き前利益 31.2 億米ドル(前年同期比 10%増)と最高益更新

力強いビジネス成長と一貫した実績数値

業績ハイライト:

- 税引き前利益は前年同期比で 10%、前年下半期比では 35% の増加
- コンシューマーバンキング・ホールセールバンキング両部門の営業収益は、前年同期比で各々85%、10%増加
- 好調な収益成長率: コンシューマーバンキング・ホールセールバンキング両部門の顧客収益は、前年同期比で各々8%、18%の増加
- 営業収益は、昨年上半期と同レベルで推移しているのに対し、同年下半期との比較では 10%の増加
- 配当金額、EPS(一株当たりの利益)は、各々10%の増加
- 事業部門・地域市場全般にわたり、堅調で多岐にわたる収益成長を達成
- 資本力と流動性を引き続き強化
- 事業展開する市場において長期成長を目指した積極的な投資を実施
- 融資減損額は、コンシューマーバンキング・ホールセールバンキング両部門で減少

本日付(8月4日付)で発表された2010 年度上半期におけるスタンダードチャータードPLC(スタンダードチャータード銀行の最終持ち株会社。本社:ロンドン、CEO:ピーター・サンズ)の税引き前利益は最高益となる31.2億米ドルを計上し、一貫してサステナビリティ(持続性)のある業績を収めるという当行グループの高い事業能力を示すこととなりました。また、資本・流動性比率の改善にも努め、一株当たり利益、配当金共に各々10%の伸びを達成致しました。

顧客収益についても、コンシューマーバンキング部門で 8%、ホールセールバンキング部門で 18%と、堅調な伸びを示しています。

グループ各部門の収益は前年同期比で全般的に概ね横ばいで推移していますが、これは、前年のホールセールバンキング事業部門の自己勘定取引からの例外的な収益と自社株買いによる収益 2 億 4,800 万ドル(単発ベース)に拠るものです。グループ総収益については、前年下半期比で 10%増を計上しています。

当行グループ最高経営責任者(CEO)であるピーター・サンズは以下のように述べています。

「今期も前期同様の好業績を計上できたのは、一貫してサステナビリティ(持続性)のある業績を達成する、という私どものコミットメントの表れであると考えています。これは、単に、急速な収益の立ち直りや利益回復というのではなく、営業収益、税引き前利益共に 7 年間以上連続しての最高益達成という成果です。コンシューマーバンキング・ホールセールバンキング事業は、好調な成長モメンタムに支えられ下半期入りしましたが、今後のグローバル経済の展開に引き続き注視しつつ、市場の激しい変動に適した事業運営体制を構築してまいります。現在、当行グループは、事業拠点を置く市場すべてにおいて、ビジネスチャンスを掴むための長期的な投資を行っています。また、健全な経営態勢を維持するとともに好調な成長を続けており、将来面でも市場で優位なポジションを保持しています」

両事業部門では好調な成長モメンタムが続いています。事業展開するアジア地域市場の多くで非常に力強い成長が見られることから、それが先頃の金融危機からの回復につながっており、当行の事業取引量にも反映したと思われる。住宅ローン、預金、法人向け金融サービス事業、貿易金融、キャッシュ・マネージメント等の主要商品についても、今後も引き続き市場シェア拡大を目指す所存です。

経済環境の改善を受けて、当行は、慎重姿勢を保ちながらも、その市場における長期的な成長を目指す先行投資を段階的に増しています。そのため、人材確保、支店、インフラ構築プロジェクト、商品拡充のための投資により、費用支出は前年同期比で 8%増となりました。

当行グループは、厳格なコスト及びリスク管理、高い流動性と堅固なバランスシートの維持により、健全な銀行業の基本原則に注力した経営態勢を一貫して保持してまいりました。また、今年上半期においては、強固な自己資本を維持し、オーガニックベースで20億ドル超の資本を創出しています。また、コアTier1資本比率は9%に増加し、総自己資本比率は15.5%と堅調なレベルを維持しています。預貸率については76.2%とさらに改善し、預金高も引き続き増加傾向にあります。

2010 年度に満期となる債務返済残高の全額、及び翌 2011 年度に満期到来する債務残高の大部分の引当をすでに確保し、慎重な資金調達構成となっています。また、アジア・アフリカ・中東地域に注力した事業展開により、南欧諸国のソブリン債への直接的なエクスポージャーはございません。市場別収益についても、十分に分散されたものであり、グループ総収益の 15%を超える市場はございません。

資産の質(アセットクオリティー)も引き続き大変良好であり、クレジット環境の緩和を受けて、慎重な姿勢を保ちつつも、融資減損額は 60%減と大幅に減少し、4 億 3,700 万ドルとなりました(ホールセール・バンキング部門: 前年同期比で 74%減、コンシューマーバンキング部門: 前年同期比で 47%減)。

ホールセールバンキング部門では、顧客リレーションシップの強化を軸とした戦略をさらに推進したことで前年同期比で顧客収益 18%増と最高益を達成し、現在、グループ総収益の 81%を占めるまでになっています。同部門の営業収益は、前年同期比で横ばいで推移。一方、税引き前利益は 10%の伸びを示しています。自己勘定取引からの収益は、市場ボラティリティの低下と利幅の収縮で、前年同期比で 40%の減少となりましたが、前年下半期比では 14%増となっています。同部門は、引き続きその事業規模・能力に則り、この 3 年間で数件の事業買収を完了しています。法人顧客向け金融サービス事業(コーポレートファイナンス)の営業収益については、前年同期比で 52%増を記録し、融資事業、貿易金融事業からの営業収益も、さらなる顧客サポート態勢の拡充により各々13%、11%の伸びを示しています。

コンシューマーバンキング部門では事業再編成の成果が収益計上に結びつき、低金利環境の逆風を受けながらも税引き前利益は前年同期比で 85%増、営業収益は 8%増を達成いたしました。また、今年上半期における住宅ローン事業、自動車ローン事業の収益は 36%増、カード事業、個人向け融資事業の収益は 4%増となっています。ウェルスマネジメント事業、預金事業の収益伸び率は、低金利を受けて横ばいの状態ですが同部門では引き続き預金残高が大幅に増加し、11%の伸びとなっています。

スタンダードチャータード銀行は、中小企業(SME)が各国・地域の経済に重要な役割を果たしていることを認識し、引き続き SME 顧客向け融資事業を拡大したことで、当該融資残高は、2009 年に 14%、今年上半期にはさらに 7%の伸びを示しています。また、低金利の緩和効果を受けて、コンシューマーバンキング部門の融資事業は成長に向けて大変優位なポジションにあるといえるでしょう。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Jon Tracey, Head of Media Relations
Standard Chartered Bank
Tel: +44 20 7885 7613 / +44 7730 051846
jonathan.tracey@sc.com

日本語での問い合わせは以下へご連絡ください。
スタンダードチャータード銀行
コーポレート・アフェアーズ部
Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9333
CA.japan@sc.com

財務実績ハイライト

(単位: 百万米ドル)

グループ	2010 年度上半期	2009 年度上半期	増減(%)
営業収益	7,924	7,960	(0)
費用	4,344	4,027	8
融資の減損	437	1,088	(60)
税引き前利益	3,116	2,838	10
ホールセールバンキング部門			
営業収益	5,012	5,027	(0)
税引き前利益	2,471	2,249	10
コンシューマーバンキング部門			
営業収益	2,912	2,685	8
税引き前利益	643	348	85

税引き前利益(国・地域別)

(単位: 百万米ドル)

国・地域名	2010 年度上半期	2009 年度上半期	増減(%)
香港	511	576	(11)
シンガポール	419	430	(3)
韓国	149	81	84
その他アジア太平洋地域諸国	579	416	39
インド	624	526	19
中東南アジア	400	220	82
アフリカ	311	265	17
米州・欧州(英国を含む)	123	324	(62)

スタンダードチャータード銀行-アジア・アフリカ・中東地域における先駆者として

スタンダードチャータード銀行の最終持ち株会社であるスタンダードチャータードPLCは、ロンドン証券取引所、ムンバイ証券取引所、ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースでFTSE100構成銘柄の上位20社にランキングされています。ロンドンに本拠地を置く当行グループは、創立以来150年以上の歴史を誇り、世界で最もダイナミックな市場-アジア・アフリカ・中東地域における先駆者として事業展開しています。また、その営業収益および税引き前利益の約9割は同地域市場から創出されており、ここ数年にわたる収益成長は、現地に根ざし、その地のお客様とさらに親密な顧客リレーションシップを構築するという当行のコミットメントによるものです。

また、スタンダードチャータード銀行は、世界70カ国以上で1,700余の店舗展開をするグローバル事業ネットワークを有し、総勢80,000余名の行員国際的なキャリア構築の機会を提供しています。また、長期的視野に立ったサステナビリティ(持続性)のある事業構築に取り組む傍ら、高いレベルでの企業統治(コーポレートガバナンス)を保持すると共に、社会的責任を果たし、環境保護、および、多様性に富んだ人材育成にも力を注いでいます。新しいブランドプロミスである「Here for good」は、当行のこのような伝統と企業価値を表すものです。

日本・アジア地域におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜にはじめての駐在員事務所を開設した1880年にさかのぼり、今年で130年目を迎えます。現在では、東京支店(千代田区・山王パークタワー)および丸の内支店(千代田区・岸本ビル)において約270名の従業員を擁しています。アジア・アフリカ・中東の各地域で投資事業を展開する日本の企業法人・金融法人のお客様向けにホールセール、カストディ、トレジャリー、トレードファイナンス等の金融サービスを提供するほか、2005年には個人のお客様向けに「プライオリティバンキング」部門を開設し、さらなる成長を続けています。

世界におけるスタンダードチャータードのウェブサイト(英語): www.standardchartered.com

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(日本語): www.standardchartered.co.jp

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(英語):

www.standardchartered.co.jp/index_english.html

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できると思われる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。